とちぎリハビリテーションセンター
Tochigi Rehabilitation Center

とちリハ通信

第56号
平成29年12月

◆各部の近況　－今回は各部の実施した行事、イベントなどをお伝えします－

管理部

第15回リハセンターまつりを開催しました！

第15回とちぎリハビリテーションセンターまつりを10月４日（水）に開催しました。

おまつりでは、最初に、会場からの「わっしょい！」という掛け声とともに、こども療育センターのこども御神輿が登場しました。その後、お手玉ゲームをしたり、リハビリ体験でプラスチック製のキーホルダーづくりをして、こどもも大人もたくさんの人が楽しみました。

マスコットのみんな♪

メインステージでは、今年初めての試みとして、とちまるくんや県民の日マスコットのルリちゃん、とちぎナイスハート推進マスコットのナイチュウとの写真撮影が行われました。たくさんのこどもたちと写真を撮ったり、触れ合ったりして、マスコットたちもおまつりを楽しみました。

最後に、マロニエウインドオーケストラによる演奏がありました。入院している方、通院している方などが足を止めて演奏を聴き、演奏が終わった後も「アンコール！」という声と拍手が会場に響き渡りました。

今年もおまつりに多くの人が参加して、大盛況でした。たくさんの人たちの思い出に残るおまつりになったとすれば幸いです。開催に当たっては、関係の方々に大変お世話になりました。ありがとうございました。

マロニエウインドオーケストラの様子♪

おまつりの様子♪

相談支援部

平成29年度発達障害セミナーを開催しました

平成29年9月17日（日）に、とちぎ健康の森講堂で発達障害セミナーを開催しました。今回は、「発達障害のある人の家族に寄り添う～一人ひとりができること～」をテーマとした、立正大学の中田洋二郎（なかた・ようじろう）教授の講演で、発達障害のある方や家族、支援者など200名を超える参加がありました。講演では、「親の心の揺れとして慢性的悲哀という考え方」、「本人にとっては障害受容ではなく、自己理解であるということ」、「障害は社会との関係の中で生まれること」、「障害の告知者は医師だけでなく、支援者もその時々で告知者になりうること」などの話がありました。支援者として心に留めておかなければならない大切なことばかりで、参加した家族からは「家族の気持ちをよくわかってくださり、とても救われた」などの感想をいただきました。

発達障害セミナーの様子

このようなセミナーをとおして、引き続き一人でも多くの方に発達障害を理解していただくとともに、発達障害のある方や家族への支援の輪が広がるよう努めていきたいと思います。

ICT活動報告

ＩＣＴってなんだろう？

インフェクションコントロールチーム（Infection Control Team）の略称です。センター内で起こる色々な感染症から患者さんなどを守るための活動を行っています。

週に１回テーマを決めて、多職種が連携し、ICTラウンド（見回り）を実施しています。改善が必要な時は指導を行います。

院内感染防止対策の基本と具体的方法について全職員へ周知を図るために講習会を年２回以上開催しています。１回目のテーマは「手指衛生から始める感染対策」でした。

病院相互ラウンドの様子（がんセンターにて）

当センターと栃木県立がんセンターのICTは年４回合同で院内感染対策に関するカンファレンスを実施しています。
年１回病院相互ラウンドを実施しています。

手洗い評価キットで汚れチェック中

○このほかにも、ICTのラウンドの時はチェックシートを使用し、ラウンドを行った部署へフィードバックしています。

感染の大多数は、手から手を伝わり感染を起こすと言われています。しっかり手を洗いましょう！

（看護部）

連載　診療部　（第2回）

発達障害と薬物療法

まず、表題が『発達障害の薬物療法』ではなく、『発達障害と薬物療法』であることから説明しなくてはなりません。現状、発達障害を薬物治療によって根治できるという事実はありません。薬物療法は、あくまで発達障害にとっての補助療法という位置づけになるからです。発達障害を抱える当人の、社会への適応的な障害や行動障害に対する緩和目的だけでなく、二次障害から精神疾患に発展した場合の治療、あるいは、発達障害に併存しやすい睡眠障害やてんかんなどの合併症に対する治療目的など、様々です。

当科で、最も使用頻度の高い薬剤は、注意欠如多動症（ADHD）向けの治療薬です。2007年12月にメチルフェニデート徐放製剤が、2009年４月にアトモキセチンが国内発売され、同時期より、学齢のADHD児に対して処方例が年々増加してきています。主に教育機関などからの紹介が多く、学校現場でも、10年以上前より通常学級における特別支援教育の取り組みについて文科省から指針がでて以来、薬物療法への認識が高まっていることが理由の一つと考えられます。本年５月に３剤目としてグアンファシンが加わり、治療薬の選択肢が増えたことは最近のトピックでもあります。いずれも、ADHDの３主徴である、不注意、衝動性、多動性に対する有効性が知られていますが、その効き目の発現の仕方には薬剤ごとに若干の差異があります。

もう一つ使用頻度の高い薬剤が、自閉スペクトラム症の易刺激性に対する治療薬で、2016年３月にリスペリドン、９月にアリピプラゾールの２種類が順次適応追加されました。これらは、もともと非定型抗精神病薬として存在し、発達障害の診療では、以前から著しいパニックやかんしゃく、自傷・他害行為などの事例への有効性が知られていたため、適応を拡大して使用してきた経緯もありました。正式に承認されることで、今後ますます出番があるものと思われます。

精神疾患や合併症に対する治療については、ここでは割愛しますが、いずれにせよ、薬物療法を行うことが「本人にとっての幸せである」ことが第一で、「①いつ、②どのような状態になったら、③何を目的／ゴールに使うのか」ということを明確にし、並行して「治療期間内に本人へのどのような成長的支援を行っていくのか」という継続的な戦略と、副作用などのモニタリングなどの医療的なマネージメントを同時に行えることが、成功のカギであると考えています。補助療法である以上、診断後に即、薬物治療を行うということではありません。また、服薬も年単位に及ぶことも少なくないため、小児期への投薬ということについては、成長途上の身体にとっての負担を懸念する声も聞きます。発達障害に対しては、認知社会的なアプローチ、具体的には本人の適応的行動やスキルの向上、周囲の理解と支援、自己肯定感の維持と二次障害の予防など、まず行えることを優先し、薬物療法については、それを対応オプションとして念頭に入れながら、個々に必要性を検討していく必要があるといえます。あくまで主人公は『本人』、その点について、治療者を含めた関係者全員の共通理解が得られていることが大前提だということは言うまでもありません。

当科は、栃木県内でも県央地区の基幹病院として多くの薬物治療を行ってきた実績があります。学校などから薬物療法を強く勧められて、当惑しているといった方の相談にもきちんと対応しておりますので、必要な際には、是非遠慮なく御相談いただけたら幸いです。

（小児科医師　清水純）

インフォメーション

○平成29年度身体障害者巡回相談のお知らせ

身体障害に関する相談会を開催します。医学的な相談、補装具、身体障害者手帳、リハビリ等に関する相談を整形外科医、リハビリ専門職等が対応いたします。（要予約、先着５名程度）

相談を御希望の方は、お住まいの市町の障害福祉担当課にお申し込みください。

年　月　日	エリア	開催市	会場（施設名）	開催時間
平成30年１月18日（木）	県南	栃木市	栃木市栃木保健福祉センター	14：00 ～ 16：00
平成30年２月１日（木）	県西	鹿沼市	鹿沼市民情報センター	

※お住まいの市町以外で開催される巡回相談にも参加可能です。

※都合により日時が変更となる場合もございます。必ずお住まいの市町の障害福祉担当課にお申し込みの上、御参加ください。

（相談支援部）

○訓練室、改築中です

４月１日の６階病棟開棟で、患者さんが増加すると思われるため、PT室やOT室、ST室の移転拡張を進めています。すでに新OT室と新ST室が稼働しており、PT室も来年１月中に改修が完了する見込みです。（現在は仮スペースで訓練を実施中。）

新しいリハ室をどうぞお楽しみに。

（リハビリテーション部）

○来年４月、とちぎリハビリテーションセンターは「地方独立行政法人」に生まれ変わります！

当センターは、これまで心身に障害のある県民の自立と社会参加を図るため、様々な取組を行なってきました。来年４月、地方独立行政法人に生まれ変わりますが、理念や方針は変わらず、県立病院・施設としての位置付けも変わりません。これを機会として、医療機能や福祉サービスの充実を図るとともに地域医療・福祉への支援を強化して参ります。

相談支援部門は県の機関として存続します。当センターは、当該機関との連携を密にし、心身に障害のある方々の生活の質の向上や地域生活への移行をお手伝いしていきます。

（管理部）

（発行）とちぎリハビリテーションセンター
管理部総務企画課
〒320-8503　宇都宮市駒生町3337-1
TEL 028-623-6101
FAX 028-623-6151
ホームページ　http://www.rhc.pref.tochigi.lg.jp/index.html/

UD Universal Design Font
◎本冊子はユニバーサルデザインフォントを使用しています。
※ユニバーサルデザインフォント…年齢、性別、障がいの有無にかかわらず、さまざまな人が読みやすく、誤読されにくい書体です。